

大垣市金生山化石館

化石館だより



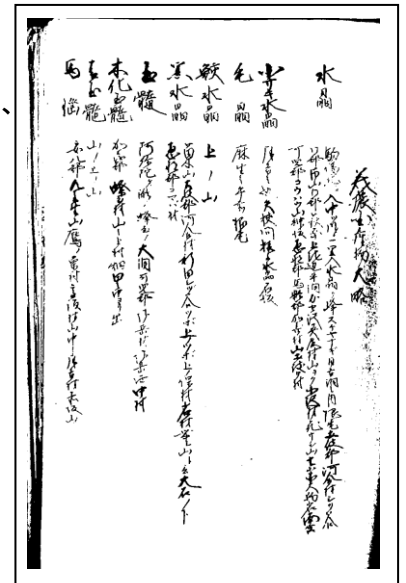
コラム

古文書に見る金生山の鉱物

明治6年オーストリアのウイーンで万国博覧会が催され、明治新政府はこれに賛同して多くの産物を出品しました。美濃赤坂からは金生山の大理石を用いた石細工が多数出品され、その石細工からギンベルがフズリナ（パラフズリナ・ジャポニカ）を発見し新種記載をしました。これが日本産化石として最初の新種記載となったことから金生山は「日本の古生物学発祥の地」とされています。

さて当時、明治政府は各県に命じて各県の産物を調べさせていました。この命を受け岐阜県に報告された文書のコピーを見る機会を得ましたので、そこに記された美濃の産物大略から金生山の鉱物について紹介します。私が見たのは正式な文書ではなくその下書きと思われるのですが、なかなか興味深いものでした。美濃一円を対象として記述されたものですが、金生山産がたくさん入っていたのです。文書には壬申二月の日付が記されていますから、明治5年2月に書かれたものです。

記述されている産物の大半は鉱物でしたが、当時の名称は現在の鉱物名とは異なりますので、どの鉱物に相当するのか判然としません。同じ鉱物でも見た目が違うと別名が付けられています。文書は毛筆で崩し字が多用されており、素養のない私には読めない部分が多々あり苦労しました。以下、産地として金生山の名がついているものを挙げてみました。



瑪瑙、石中黄、ホタル石、ウズ石、紅？石、センベ石、セキチク石、セイガイ石、クハガタ石、滑石、土殷蕨子（トインケツ）、禹餘糧（ウヨリョウ）、ムカゴ石、舍利石、金鉱、銀鉱、自然銅（サイサキ）、蛇含石（ダカンセキ）、代赫石（タイカクセキ）、緑青石、青礫石、油石、ツブツブ石、赤石脂、花斑石、五色蠟石、白蠟石、石膏、鍾乳石、寒水石、方解石、石芝



寒水茶碗

どうですか、実に多種多様でしょう。中には本当に産出したのか疑問に思うものもあります。金生山は東西1km、南北2kmという小さな石灰岩の山です。そんな小さな山からこれだけ種類の鉱物が産していることには本当に驚かされます。



壺石(褐鉄鉱)

この時代、鉱物には薬効があると考えられその多くが薬として用いられていました。鍾乳石や寒水石、禹餘糧、滑石などは正倉院御物にも見られます。石灰石は腫瘍の薬として、赤鉄鉱である代赫石(タイカクセキ)は腸の薬として用いられました。禹餘糧(ウヨリョウ)は粘土の塊を褐鉄鉱が覆ったもので、内部の粘土に薬効があるとされました。禹餘糧には内部が空洞になっていて振ると音がするものがあり、この様な石は「壺石」「鳴石」とも呼ばれます。土殷蕨子(トインケツ)は葦などの茎や根に水中の鉄分が集まり管状をした褐鉄鉱の塊となったもので、いわゆる「高師小僧」と呼ばれているものです。舍利石とは玉髓のことで瑪瑙と同じく二酸化ケイ素を主成分とする鉱物です。どうしてこのような鉱物が金生山から見つかったのでしょうか。不思議ですね。

金生山には東西方向に大きな玄武岩の脈が数本横切っており、これに付随した断層や亀裂が多数見られます。玄武岩はマグマが冷え固まってできる岩石です。玄武岩は地下深部から様々な元素を運んで来て、石灰岩との接触部にスカルンと呼ばれる鉱物の集合体を形成しました。またその高熱により周辺部の石灰岩を大理石や方解石に変成しました。多彩な色や模様の大大理石は玄武岩がもたらした様々な元素や石灰岩に含まれていた化石によるものです。金生山には良質の赤鉄鉱の鉱脈があり、昭和20年ころには採掘がおこなわれていました。また金生山の西側には銅を採掘したとみられる廃坑があり、黄銅鉱、孔雀石、藍銅鉱などが見つかっています。石灰岩に貫入した玄武岩は、こうした様々な鉱物を生み出してくれたようです。金生山は石灰岩だけの山ではありません、実に不思議な山なのです。

金生山は石灰岩の鉱山として現在も採掘されています。更紗山、愛宕山、月見山と称していた頂上部のピークは既に無くなっており、かつての地表面は残されていません。江戸時代の金生山はどのような山だったのでしょうか。様々な化石と共に珍しい鉱物もたくさん採集できたのでしょうかね。「雲根誌」を著した木内石亭、その石亭と親交があり石細工の祖と崇められている地元の愛石家、谷鼎やその仲間たちはさぞかし楽しかったことだろうと思われます。

(文責：高木洋一)

お知らせ

展示解説をします

団体入館の方だけでなく、個人入館の方でもご希望があれば解説します。専門員不在の場合もありますので、受付でお尋ねください。

ウミユリ
の不思議

2019年度前期企画展
5月3日(金)
- 9月2日(月)

会場 金生山化石館 2F展示室
開館 午前9時-午後4時30分
休館日 水曜日(祝祭日は除く)
入場料 100円(団体来館は無料)

主催 金生山化石館
協賛 大垣市教育委員会、大垣博物館
協力 金生山化石館研究会
問合せ 金生山化石館 ☎0584-71-0950

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp